

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170500039		
法人名	社会福祉法人 伊万里敬愛会		
事業所名	グループホーム 椎の木の家		
所在地	佐賀県伊万里市黒川町小黒川145番地1		
自己評価作成日	平成26年2月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成26年3月10日	外部評価確定日	平成26年4月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①古い民家改修型で、利用者が生活してこられた馴染みの落ち着いた雰囲気があり、立地場所としても目の前に湖上公園があり、四季折々に花が楽しめる。また、海にも近く、風光明媚な環境にある。 ②地域住民の方が気軽に訪問されたり、行事にも沢山参加していただいたり、地域に根付いている。 ③3地区の区長、民生委員、地区役員の方に運営推進会議のメンバーに入っていただいているので、事業所として地域の行事ほか色々な情報が得られる。また、地域の方が事業所の内容や認知症に対する理解があり、何かと協力が得やすい。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

黒川町の中心部に位置する事業所は、開設者の大きな二階建ての旧宅を利用した民家改修型で、建物の内外には懐かしい和の情緒が漂っている。目の前には、湖上公園もあり、花の季節には窓越しにも花を愛でることができる風光明媚な環境である。職員は、「認知障害があっても、一人ひとりが地域の中で当たり前暮らしながら、人間の尊厳を大切に生きていく」を理念とし、職員間の意思の疎通を図ると共に、家族との関わりも大切にしながら理念の実践に取り組んでいる。今年度は、法人の研修支援事業を活用し、全職員が法人内外の研修に参加することで、その成果を日々の支援に発揮している。勤務体制では、二階建の事業所でもあることから夜勤者を二名配置し、安全性に配慮している。地元の方々とは、開設者との以前からの繋がりもあって、深い理解と協力を得、日常の交流を始め、災害対策訓練時にも多くの参加協力を得ている。運営推進会議のメンバーにも近隣3地区の区長が属し、サービス向上に繋がる多くの提案や助言等が提供されている。
--

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「認知障害があっても、一人一人が地域の中で当たり前暮しながら、人間の尊厳を大切に生きていく」という理念を毎朝、申し送り時に唱和し、日々の業務において実践している。	地域密着型サービスの意義と役割を踏まえた理念を掲げ、利用者が普通の場所で、普通の暮らしが営める支援を目指している。職員は、朝礼時に理念を唱和し実践に取り組んでいる。なお、新しい職員には、管理者がオリエンテーション時に理念を説明している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(ふるさと祭り、祇園祭等)に進んで参加し、またホームの行事(夏祭り、消防訓練など)にも地域の方に参加してもらっている。正月の門松も毎年、玄関先に地域の団体により作ってもらっている。地区のお知らせや回覧板も回ってくる。	近隣住民の事業所への理解が深く、日常的に訪問や野菜等の差し入れがなされている。地域のお祭り等には利用者と一緒に参加し、また、事業所の夏祭りにも多くの地域住民の参加を得ている。自治会にも加入しており、地域のお知らせや回覧板も届けられている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏祭りに招待したり、地域の行事に参加することにより、認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間行事やサービスの状況、利用者の近況、外部評価他の報告を行い、話し合って意見を聞き、サービスの向上に活かしている。3地区の区長や民生委員会長に参加してもらうので、外部の情報も得られるし、ホームからの意見も伝えてもらえる。	運営推進会議は2ヶ月に1回、家族や近隣3地区の区長、民生委員、行政職員等の参加を得て開催されている。事業報告、事業計画の説明に加え、参加者からの積極的な提案や情報提供がなされ、サービス向上に繋がる有意義な会議になっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設長、事務長は市役所など関係機関と関わりを多く持ち、常に連携を図りサービスの質の向上に努めている。	法人母体が行政との窓口を担当しており、普段の連絡等は窓口を介して行っている。管理者は、運営推進会議で担当者と交流している。法人母体では、市の認知症予防推進事業の委託も受けており、協力関係を構築している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事故防止委員会の中で、身体拘束防止について話し合い、ホームの会議などで伝達し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また職員勉強会でも取り上げたりして、理解に努めている。	職員は勉強会等を通して、身体拘束の弊害と禁止行為を理解し、拘束のない支援に努めている。職員の作業状況により、玄関に続く廊下のドアに鍵をかけることがあるが、日中、玄関は施錠されていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事故防止委員会の中で、虐待防止について話し合い、職員勉強会等で伝達し、防止に努めている。			

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修には参加しているが、現在対象者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長、事務長、部長、ケアマネ、管理者が対応し、必要であれば医師から直接説明をしていただき、十分な説明を行い、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の折に、利用者家族と一緒に話をしたり、また、行事などへの参加を呼び掛け意見・要望を聞く機会を作り、ケアプランに反映させている。ほかの職員にも報告しあってサービスの向上に努めている。	職員は家族の面会時には必ず声をかけ、意見や要望等を聴いている。また、年に1回、家族会を開催し、何でも言ってもらうように声をかけている。出された要望等には速やかに対処し、サービスに反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議にて、職員の意見を聞く機会を設けたり、日常業務の中でもできるだけ意見を聞き反映させている。1年に2回は主任・施設長との面談をしており、その中での意見も反映できるようにしている。	毎月開く職員会議には、施設長、事務長も参加をし、職員の意見や提案を聞いている。職員は気兼ねなく積極的に意見や提案をし、運営にも反映されている。また、年に2回、管理者及び施設長との個人面談も行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	非常勤から常勤への登用や処遇面、福利厚生、研修など平等に行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は研修支援事業が利用できたので、県社協ほか法人内外の研修には全員をまんべんなく参加させ、知識や技術を深めてもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設研修を計画してもらったので、全員が研修に参加し、意見交換する機会があり、サービスの質の向上につながるように努めた。		

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に十分な情報収集を行い、受け止め、体験入所してもらい、納得してもらってから利用していただいた。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前に家族から十分な情報収集を行ったり、見学してもらい、事業について十分な説明を行い、要望などに耳を傾け、関係作りに努めた。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の一番の要望を聞き、ケアマネや職員全員で話し合い、ほかのサービスの提供責任者とも話を聞き、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で、利用者から生活の知恵を聞いたり、本人に会った仕事の手伝いをお願いしたり、料理の手伝いや一緒にお茶を飲みながら、寄り添い、傾聴したりして人間関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会や、行事参加の折に、家族の方と話をし、利用者をより深く理解し、一緒に支えていけるように努めている。兄弟での負担が偏らないように伝えてみたり、家族にも職員と共に出来る支援をお願いして、一緒に介護しているという関係を継続している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、友達、近所の方などいつでも自由にきていただけるように心掛けている。使い慣れた家具などを居室に置き、馴染みの場所の確保に努めている。	利用者の馴染みの人の訪問時には、一緒に歓迎し、再来を依頼している。また、希望時には一緒に自宅の仏様や墓参り、寺参りをし、馴染みの場所との関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	隣り合って気が合わないときは、席替えを試みたりして、気の合う人と座る位置等に気を配ったり、レクリエーションのときなど利用者全員が参加できるよう計画を立て、孤立されないように努めている。利用者がお互いに助け合ったりされることも多い。		

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院、長期入所などされた場合は、職員と利用者とお見舞いに行ったりしている。亡くなられてもまた家族も時折、顔を出されて他の利用者が元気であることを見て思い出話をして行かれる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	会話の中での思いや表情を見逃さず、また来訪された折の家族との会話から、思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、願い事実現事業でできることは実現できるようにつなげている。	利用者の話をゆっくりと聴き、思いや希望を汲み取っている。強度の難聴の方とは、筆談やジェスチャーを交えて意志の疎通を図っている。職員には、研修を通して思いの把握に上達もみられる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や家族との会話により、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌、ケース記録により現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の業務日誌やミーティングや家族との会話の中から担当者が課題を考え、ケアプラン会議において話し合い介護計画を作成し、家族に提示し了解を得ている。	利用者や家族と話し合い、本人・家族の希望等を汲み取った介護計画を作成している。介護計画に添って日々モニタリングをし、定期的な評価と6ヶ月毎の見直しを行っている。なお、状態に変化が生じた場合には、速やかに見直ししている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録に特変時の状況を記録し、またケアプラン実施表により評価し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族を交えての外部での敬老祝賀会や温泉旅行、また体調不良時の病院受診等家族対応が不可能な時も含め、職員の勤務体制を変更したり、勤務時間を延長したりして柔軟な支援を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方や団体でのボランティアをお願いしたり、消防訓練等の折に関係機関や地域の方の協力をお願いし協働している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	6ヶ月に一度の健康診断と月1回の診察を受けている。	協力医療機関が近くにあることから、契約時に説明をし、協力医療機関への主治医の変更をお願いしている。本人・家族の納得のもとに変更し、以前のかかりつけ医からは添書が届けられている。毎月1回の受診に同行し、適切な受診を支援している。急変時にはいつでも受診できる体制にある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	椎の木の家のスタッフが判断を聞きたいときは、協力病院に連絡して、医師や看護師に相談したり、毎月の病院受診時に現状を報告・相談し指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院と随時連携を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力病院の主治医との連携を図り、家族などとも話し合い、方針を共有している。	重度化した場合や終末期の支援は基本的に行われておらず、協力医療機関や法人母体の特別養護老人ホームとの連携で対応している。このことは、契約時に本人や家族に説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修などで学んだり、看護師により職員勉強会などで訓練したり、地域の消防署に派遣をお願いして救命救急法の訓練も毎年全員が受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方も参加してもらい、職員全員が避難訓練などを行っている。	消防署や地域住民の参加と協力を得て、年に3回、昼夜の火災を想定した通報、消火、避難誘導等の訓練を実施している。夜間想定訓練では、全職員が体験できるように3日間行っている。地域住民からの協力体制も築かれている。	

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「認知障害があっても、一人一人が地域の中で当たり前暮らしながら、人間の尊厳を大切に生きていく」という理念のもとに対応している。記録などは鍵のかかる書棚に保管している。	理念にも人間の尊厳を謳っており、利用者の人格を尊重した言葉かけや対応に努めている。法人でも接遇の勉強やマナーアップ、モラルアップ運動を行っており、気になる言動には管理者が注意を促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方の言葉で話しかけ、その方の希望に添った支援を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆっくりしたペースで、会話を大切にしながら、その中で希望を聞き取りながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、整容化粧をし、訪問美容を利用し、本人の好む髪型にカットしてもらっている。毎月化粧ボランティアの方に来てもらって、おしゃれを楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	リビングにも、料理のできる香りがし、季節の物、行事食に心掛け、また、会話の中で食べたいものを聞き対応ができるようにし、全員で食事をする。	献立は利用者にも声を掛けて担当者が日毎に決め、利用者と一緒に下拵えを行っている。栄養のバランスチェックも、法人内の栄養士によりなされている。食事は、職員も一緒に食卓を囲んで食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態に応じ、量、栄養バランスを考え配膳し、嚥下状態をみながら刻みにしたり、ふりかけを利用したりして、援助している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面所にて歯磨き、義歯洗浄、うがいを行っている。自分でできる方は見守り、出来ない方は支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表により個々の排泄パターンを把握し、本人に聞いたり待つことにより、排泄のサインが分かるようになった。	一人ひとりの排泄パターンや様子等から声掛けをし、全員にトイレやポータブルトイレでの排泄支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や毎日の体操などで取り組んでいる。また排便チェックを行いその人に応じた下剤の服用をしている。また施設の栄養士や看護師に相談している。野菜を多く取り入れ、ヨーグルトも毎日取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	望まれる方には毎日の入浴が提供できる。入浴に応じられない場合は無理をせず、清拭で対応している。また、一番風呂を希望される方には、一番に誘導するように心掛けている。湯加減はその都度、本人に聞いて調整している。パウチを使用している方には、最後になることを了解してもらっている。	基本的には2～3日に1回の入浴であるが、希望があれば毎日でも対応し、時間や順番も希望に合わせて支援している。入浴日以外は、清拭と下着の交換をし、保清に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室内の温度や明りに気を配り、就寝前の排泄、お茶などでゆっくり休んでもらえるようにしている。また眠れない方には、無理して寝せず職員と一緒にテレビを見たり、お茶を進めたりして寄り添い、安心して休んでもらえるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については、薬剤の写真付きの説明書で理解している。薬はホームで管理し服薬まで確認し、症状の変化は月一回の定期検診で報告したり、電話にて医師に報告している。下剤服用者には排便のチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し、たたみ、掃除、食事の準備など仕事をしたほうが落ち着く方と歌などで落ち着く方等、それぞれに合わせて支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の会話を聞き、希望に添って出かけられるように支援に努めている。また、花見、コンサート、初詣、くんち見物、ふるさと祭りなど家族の方の協力を得て外出支援を行っている。	気候の良い時季には、近隣の散歩や庭での日向ぼっこをしている。また、月に数回は車で出かけ、花見や地域のお祭り、コンサート等も楽しんでもらっている。	

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分の小遣いの中から、お賽銭を出したり、法事で出かけた時はお金を渡したりされている。また、移動美容室を呼んで利用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取り次ぎ、手紙の受け取りの支援をしている。本人に書いてもらって手紙、年賀状を出せるように援助している。家に電話したいと何度も言われる方は、あらかじめ家族に了解を取った上で電話を入れている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	和風家屋を最大限に生かした民家改修型で、家具調度品も木質が中心で、家庭的で落ち着いた雰囲気心掛けています。ただ段差があつたりして、歩行には危険な時もあり、段差解消ルールを取り付けたり、蛍光テープを目印に貼ったりして注意を促している。	民家改修型の事業所内は懐かしい和の情緒が漂っている。段差や階段が多いが、段差解消ルールや蛍光テープ、昇降機、手すりを設置し安全性に配慮している。食卓に飾られた花や窓越しに見える庭の花が季節を感じさせている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で過ごしたり、ソファの配置やリビングの畳、台所などを活用し、一人一人の居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具等の持ち込みは自由にしてもらっている。家族の写真や位牌も置いたり、衣類や調度品も好きなだけ部屋に置いてもらっている。	職員は、家族に馴染みの品物等の持ち込みを勧めて、居心地良く過ごせる居室作りを支援している。居室には、家族の写真や家具、本、時計、お位牌、飾り物等が見受けられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な場所には手すりを付け、出来るだけ段差解消をしている。各居室には時計やカレンダーを置き季節に合った装いができるように、筆筒には季節ごとに職員が衣類の入れ替えをしている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない